

## 令和8年熊本地震

7月28日16時27分頃、熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の地震が発生しました。甚大な被害をもたらした平成28年熊本地震からまだ10年。再び猛威を振るった激しい揺れによる被災地の爪痕は深く、インフラや家屋の深刻な損壊状況から、復興には長い時間を要することが見込まれます。



8月1日～9月1日までに計23人を被災地へ派遣。9月以降も支援を継続予定です



8月24日時点で、490,353円を日本赤十字社宮崎県支部に送金しています

### 甚大な被害から学ぶ「備え」 被災地に寄り添う支援と協力を

7月31日、市は被災地の一日も早い復旧を願い、八代市に2リットの飲料水768本のほか紙おむつなどの生活必需品約6千点を救援物資として搬送しました。

また、これまで職員（土木技師・事務職・運転士）を現地へ派遣し、支援活動にあたっています。

近隣で起きた甚大な被害を目の当たりにし、「巨大地震はいつこの地域で起きてもおかしくない」と多くの人が改めて気づかされたのではないのでしょうか。

いつ来るか分からない災害に対し、今、私たちができることは、各家庭の備えを再度確認すること。

最低3日分の水や食料の備蓄、家具の転倒防止対策、避難経路や連絡手段の確認など、命を守る具体的な防災対策を実践しましょう。

現在、市役所本庁舎などの窓口には「熊本地震災害義援金」の募金箱を設置しています。被災地の一日も早い復旧・復興を支援するため、皆さまの温かいご支援をお待ちしています。

## 派遣職員が見た被災地



総務課 主事  
濱田 大地 さん

食料や水の備蓄の  
大切さを痛感

宇城市で支援物資の受け入れと、各避難所への仕分け・搬出業務にあたりました。現場では、一気に届く物資の在庫把握や仕分け作業に追われ、必要な物を被災者へ迅速に届ける難しさを痛感しました。発災直後は、行政からの支援物資がすぐに住民の手元へ届くとは限りません。いざという時に備えて、最低限の水や食料の備蓄について、各家庭で今一度確認しましょう。



上下水道課 主任技師  
小森 基裕 さん

現場の負担を軽減  
平時の備えが鍵に

氷川町で主にマンホールなど下水道施設の被害調査に従事しました。断水が続く現場で、自らも被災しながら懸命に対応する地元職員の姿を目の当たりにし、役割を分担して少しでも現地の負担を軽減する、自治体間の支え合いの大切さを痛感しました。この経験から得た、迅速な初動対応に直結する平時からの台帳整備という学びを今後の日々の業務に生かしていきます。

